

親日国トルコとの友好関係と 両国の発展を見据えて

～在外公館での任務とトルコの森林～



在イスタンブール総領事館
齋藤 弘幸 領事

海外・現場最前線 からのお便り

海外で活躍する林野庁職員の近況を
シリーズで報告します



ア ジアとヨーロッパが交差する世界唯一の都市イスタンブールは、東ローマ帝国及びオスマン帝国の首都として栄えた名残である「アヤソフィア(写真1)」や「トプカプ宮殿」を含むヨーロッパ側旧市街が世界遺産に登録されているなど、観光・文化の拠点として知られています。また国内のGDPの約3割、貿易額の半分以上を占めると共に、国内唯一の証券取引所が存在する、経済・金融の中心地にもなっています。

また、トルコと日本の関わりとしては、エルトゥールル号遭難事件(1890年)とイラン・イラク戦争(1985年)での相互の国民救出を通じた友好関係が有名であり、JICA円借款やJBOC投資金融等を介した日系企業の協力によるインフラ事業等も長年に亘って実施されています(写真2、3)。

当総領事館は、日本人職員10数名の小規模公館であり、イスタンブールを中心とするトルコ西部18県(全体では81県)を所掌しています。

EUとの関税同盟や地政学的優位性を活かしたEMEA(欧州・中東・アフリカ)地域への輸出拠点としての強み等から、製造業や小売業を中心にトルコへ進出する日系企業も増加傾向にあり、その約9割(約200社)が当館の管轄内に拠点を設けています。私は、経済担当の領事として、主に日系企業等への支援(相談対応、活動PR等)、日トルコ間の投資促進や経済情勢のフォロー等を行っています。なお、トルコにおけるもう一つの在外公館である首都アンカラの大使館では、トルコ政府との交渉を含む国全体としての調整やトルコ全体の動向の情勢フォロー等を主に行っています。



2 アジアとヨーロッパを海底トンネルで結ぶ「マルマライ」



1 世界文化遺産「アヤソフィア」



4 森林火災予防啓発の看板



3 アジアとヨーロッパに架かる「第2ボスポラス橋」

トルコの森林はほとんどが国有林であり、黒海沿岸とエーゲ海地方を中心に、針葉樹（マツ、モミ、トウヒ等）約6割、広葉樹（ブナ、ナラ、ハンノキ等）約4割という構成で分布しています。

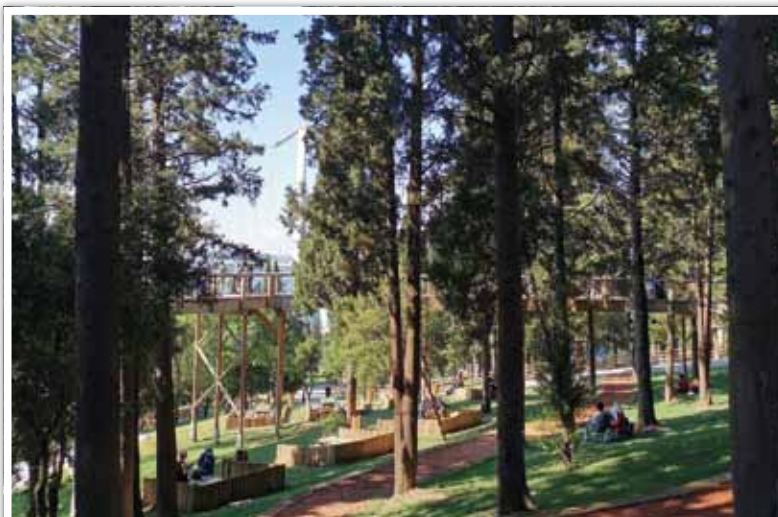
火の不始末等による森林火災や不適切な土地利用等による土壌浸食が各地で発生しているほか、最近では森林病害虫による被害も拡がっており、国を挙げて火災対策の強化、植林、モニタリング等の対策が行われています（写真4、5）。

こうした取組の下、過去50年でトルコの森林面積は約10%増加して約2,270万haとなり、2010～2020年における年平均の森林面積の増加は、FAOの世界森林資源評価（FRA）報告書において世界第6位とされています。

また、トルコ建国100周年の2023年までに国土面積の3割に当たる2,340万haの森林面積とすることが目標とされています。この面積は日本の森林面積（約2,500万ha）と同程度と考えると、トルコもなかなかの森林国といえるのではないのでしょうか？

実際、イスタンブール市内でも森林公園があちこちに整備されていて市民の憩いの場となっています（写真6）。政府やNGOによる森林を活用した「エコツーリズム」に関するプロジェクト等も各地で進められています。

コロナウイルスの影響で遠出もままならない状況ですが、機会を見つけてトルコ各地の森林にも足を運んでみたいと思います。



6 森林公園の様子



5 植林地の様子